

## 今年是要注意！？果樹カメムシ類の防除対策

今年には様々な条件が重なり、8月中旬以降カメムシ類の発生量が多くなると予想されています。大切に育てた果実が吸汁被害にあわないよう、注意深く観察し、対策を行いましょよう。

### 果樹カメムシ類の種類

果樹を加害するカメムシ類は数種いますが、被害の大部分を占める主な種は、「チャバネアオカメムシ」「ツヤアオカメムシ」「クサギカメムシ」の3種類です。その中でも果樹園への飛来、加害の大多数はチャバネアオカメムシですが、近年ツヤアオカメムシも増加傾向にあります。

### 果樹カメムシ類の生態

冬季、カメムシ類は成虫で越冬しています。チャバネアオカメムシは広葉樹の落葉下、ツヤアオカメムシは常緑広葉樹の樹冠内、クサギカメムシは樹の粗皮下や建物の隙間などで越冬しています。

気温が上昇してきた4月頃、越冬場所から動き出したカメムシ類は、6月頃にかけて植物の新梢やカンキツなどの花、サクラ、ウメ、モモ、ヤマモモ、クワの実などを吸汁します。越冬成虫量が多い年には、多数飛来してカンキツやウメ、モモなどの新梢や花、果実を吸汁して落果(花)させることがあるため、注意が必要です。

6月下旬～7月頃になると主要な餌であるヒノキやスギの毬果が成熟するので、毬果上に移動して産卵、増殖します。ヒノキ毬果上で増殖したカメムシ類の成虫は、台風等の風にあおられたり、毬果が餌として不適になったりすると果樹園へ飛来してナシやカキ、カンキツ等の果実を吸汁するため、果実の変形や落果が発生します。

9月を過ぎ、段々と夜温が下がり始めるとカメムシ類の活動時間は鈍くなり、10月下旬頃には越冬場所へと移動します。

### 平成29年度の発生状況

#### ○越冬調査結果

平成29年2月に佐賀県農業技術防除センターが実施した果樹カメムシ類の越冬調査(広葉樹落葉下のチャバネアオカメムシの調査)結果では、越冬成虫数は平年並で越冬数が少なかった前年(平成28年2月調査)に比べるとやや多いという結果となっています。越冬量が平年並であるため、越冬成虫が活動・加害する4月から8月上旬までの発生量は平年並と予想されます。

#### ○4月～8月上旬頃まで

本年は4月中旬頃からカメムシ類の予察灯への誘殺が確認されており、4月末頃から5月にかけて気温が高くカメムシ類の活動が活発になったためか予察灯への誘殺数が平年より多くなり、カンキツ園等へのカメムシ類の飛来が確認されました。その後、6月までのチャバネアオカメムシやツヤアオカメムシの予察灯およびフェロモントラップでの誘殺数は平年並で推移しており、8月上旬頃までの発生量は平年並と予想されます。

#### ○8月中旬以降(予想)

8月中旬以降の発生量は、天候と餌の量で決まります。6月23日に気象台が発表した九州北部の3ヶ月予報では、8月は平年に比べ晴れの日が多く、気温が平年より高い確率が50%、9月の気温も平年より高い可能性が50%となっており、カメムシが増殖しやすくなると考えられます。

また、平成 28 年の梅雨明け後から 9 月上旬頃まで高温・多日照が続き、スギ・ヒノキの花芽形成が促進されたため、平成 29 年はスギ・ヒノキの毬果の結実量が多くなっています。実際に防風樹等のヒノキを見てみると、例年見かけないような所にもまるまるとした毬果が確認できます。カメムシ類の餌となる毬果量が多ければたくさんの成虫が十分な栄養を蓄えて交尾・産卵することができ、新しい世代が増加します。この新しい世代の成虫がいつ果樹園へ飛来して来るかが問題となります。

カメムシ類の数に対して毬果量が十分にあり、遅くまで餌として利用できる場合には、毬果上で吸汁、増殖を繰り返し、カメムシ類の果樹園への飛来はあまり多くありません。ただし、台風等で強風にあおられた場合には果樹園へ飛来して来る場合があるため、注意が必要です。また、本年中に果樹園へ飛来しない場合は、今年大量に増殖したカメムシ類がたくさん越冬することで、春先から発生量が多くなると考えられ、来年の 4~5 月の新梢や花、果実類への被害が多くなることが予想されるため、発生状況に注意してください。

果樹園への飛来時期がいつ頃になるかは、毬果に残った口針鞘(カメムシが毬果内の種子を吸汁した時に残る跡)の数によって予測することができます。この口針鞘数や調査によって予測された飛来時期は、7 月下旬頃から農業技術防除センターのホームページ等に掲載されますので、参考にして下さい。

#### カメムシ類の防除対策

○果樹園への飛来にいち早く気づく！

果樹カメムシ類はある日突然果樹園に飛来してきます。自園に飛来してきたことに早く気づき、できるだけ早く防除することが果実被害を減らすための重要なポイントとなります。県内に設置している予察灯やフェロモントラップでのカメムシ類の誘殺数、ヒノキ毬果上のカメムシ寄生数および口針鞘数、地区ごとの大まかな飛来時期の予想等のデータは、先ほど述べた佐賀県農業技術防除センターのホームページに掲載されるため、これらの情報を参考にして下さい。また、果樹カメムシ類は夜間灯火に飛んでくるため、外灯や店の灯り、自動販売機などへの誘引状況も発生量の参考になります。ただし、飛来状況は園によって異なります。特にスギ・ヒノキ林に近い圃場や尾根沿いの圃場、早生系品種の圃場などは早くから被害を受けやすいため、注意して早期発見、早期防除に努めます。

○薬剤防除の注意点

園内でカメムシ類を確認したら、早急に薬剤防除を実施します。主な薬剤は表 1 に示す通りです。薬剤散布後に降雨があった場合、ネオニコチノイド系薬剤よりも合成ピレスロイド系薬剤の方が降雨による影響が少ないことがわかっています。天候により薬剤の選択や再散布について検討しましょう。ただし、合成ピレスロイド系剤を散布した場合には、ハダニ類やカイガラムシ類が異常増殖する場合がありますため、これらの害虫の発生状況にも注意して下さい。

薬剤防除の際、園ごとにばらばらに散布すると薬剤のかかっている園にカメムシ類が移動して生き残ることがあるため、広範囲を一斉に防除を行うのが効果的です。カメムシ類の飛来を確認したら、地域全体で防除を行いましょう。

表1 果樹カメムシ類に登録のある主な薬剤

薬剤系統	薬剤名
合成ピレスロイド系	テルスターフロアブル
	テルスター水和剤
	アグロスリン水和剤
	スカウトフロアブル
	マブリック水和剤 20
	ロディー乳剤
	MR.ジョーカー水和剤
ネオニコチノイド系	アルバリン顆粒水溶剤
	スタークル顆粒水溶剤

※剤によって登録のある作物が異なるため、ラベルをよく確認しましょう。



カンキツ果実を吸汁するチャバネアオカメムシとツヤアオカメムシ